

お願い

この説明書は実際にご使用になられる方のお手元にも必ず届くようお取り計らいください。

耐圧防爆形リミットスイッチ取扱説明書

PYLY-44BP

このたびは坂本電機製耐圧防爆形リミットスイッチをご採用いただきありがとうございます。
この説明書は、PYLY形リミットスイッチの取扱、保守について述べたものですから、
ご使用前にご熟読の上、据えつけ、保守、点検などに正しくご活用ください。

お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

(株)坂本電機製作所

本社・和白工場 〒811-0202 福岡市東区和白3丁目27-55

TEL:(092)606-2731 FAX:(092)608-1984

津屋崎工場・器具営業 〒811-3304 福津市津屋崎7丁目23-40

TEL:(0940)72-4193 FAX:(0940)72-4197

大阪営業所 〒536-0022 大阪市城東区永田4丁目15-24

TEL:(06)6961-0084 FAX:(06)6961-0085

1. ご購入時の点検について

ご注文通りの製品が届きましたか。輸送中の振動、事故等で破損していないかご確認ください。

1. 輸送中に破損したところはないか。
外装、入力軸、ネジ部等が曲がったり、凹んだりしているところはないかご確認ください。
2. ご注文通りの製品かどうか、銘板でご確認ください。
形式、定格がご注文通りかを銘板でご確認ください。

万一、不具合なところがありましたらご注文先にご連絡ください。

2. ご使用される周囲環境について

本機器は下記の周囲環境条件でご使用になれます(特にご指定のある機器については、納入時の最終仕様図に記載されています)。

1. 温度: $-10 \sim +40^{\circ}\text{C}$ 、但し氷結がないこと。
2. 相対湿度: 85%以下、但し結露がないこと。
3. 腐食性雰囲気のある場所ではご使用になれません。
4. PYLX-44Bは、1種場所・2種場所の爆発性雰囲気で使用することが出来ます。

※ 1種場所: 危険性雰囲気が正常状態で生成することがある場所。

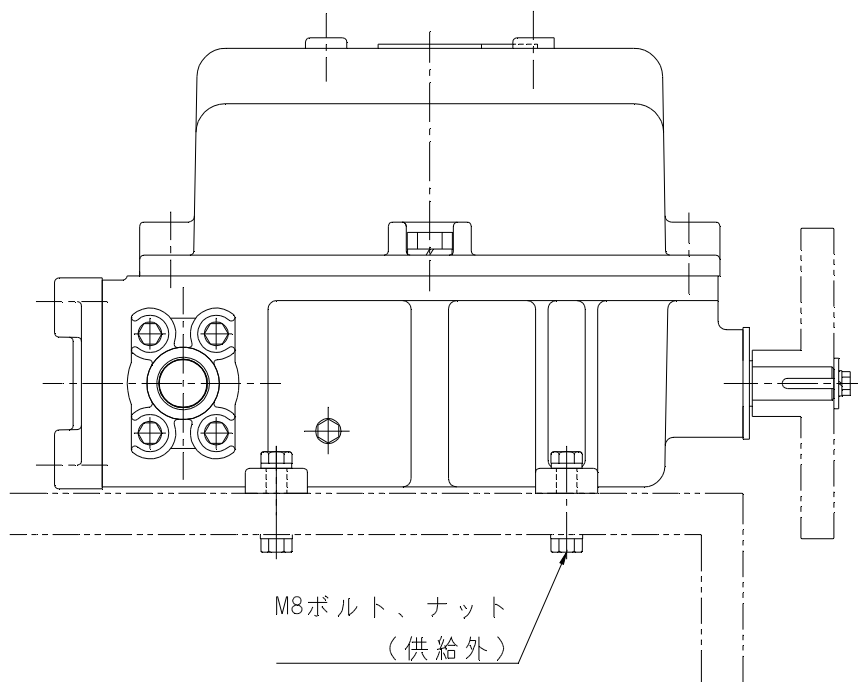
2種場所: 危険性雰囲気が正常状態で生成することはなく、たとえ生成しても短時間しか存在しない場所。

3. 据付けについて

据付が悪いと、本機器が破損したり誤作動を招きます。次の点にご留意ください。

1. 入力軸と機械側との連結はギヤかチェーン・スプロケットホイールもしくは自在継ぎ手を用いてください。(連結部が偏芯しますと、軸のカジリ発生や軸受部の磨耗を早める原因になります。)
2. 入力軸相手穴寸法公差はH7程度にし、すきまばめとしてください。無理な取付は、機器の破損原因となります。
3. 4カ所に取付穴を使用し安定した平坦な面へ確実に固定してください。
4. 取付ねじは4本のM8ボルト、ナット(供給外)で締め付けて、パネ座金や舌付き座金等の緩み止めを施してください。
5. 本機器の外装接合部は全て防爆面にて防爆性を保持しております。不要な分解は避けてください。また、外線を接続する場合は産業安全研究技術指針RIIS-TR-94-2に準じて工事を行う必要があります。その他取扱についても本指針(ガス防爆機器)に準ずる必要がありますのでご注意ください。

図 3-1 据付け例



4. 配線について

1. 端子カバーを外しケースの端子台に外線を接続します。端子(M4)への接続は絶縁スリーブ付き圧着端子を使用するか、裸圧着端子をご使用の場合は圧着部を絶縁チューブで保護してください。
2. 配線工事は「3. 据付けについて」-5の技術指針について熟知された方の管理下で実施してください。
3. 接地線を本機器の接地端子に接続してください。
4. ケーブルグランド付の場合は、ケーブル仕上外径とケーブルグランド内部のパッキン内径が適合することをご確認ください。グランドに固定後はケーブルを引っ張って、98Nの張力で抜けないことをご確認ください。
5. 屋外設置の場合は呼吸作用による浸水(外気温度差による浸水)を防止するため、グランドとケーブルの接合面をコーキング(ゴム系コンパウンド充填)してください。
6. 外部電線の引込方法やその他の取扱については防爆指針に従ってください。

5. カムの調整方法について

付図1において

1. 各々のカムは2本のボルトで固定しています。まず調整したいカムのボルトを緩めてください。
2. カムが動くようになりますので、所望する位置までカムを回転させてください。
(カムは2つ割りの組み合わせになっていますので外れないように注意してください。)
3. カムの位置が決まりましたら緩めたボルトを締めてください。
以上で調整は終わりますが、締め忘れがないこと及び所望する位置でスイッチが動くことを確認してください

6. 保守点検について

1. 点検時期

使用頻度、使用条件、環境により点検時期は左右されますが、少なくとも1ヶ月毎に点検してください。

2. 点検内容

付図1. 構造図をご参照ください。

点検項目	処置方法	備考
外観の傷、凹み、曲がりの有無	使用可か否かを判定し、不可若しくは判定不能なら現品交換してください。	
塗装のはげ、錆の有無	損傷が軽ければ錆除去後補修塗装、判定が困難なら現品交換してください。	
内部点検で浸水の有無	浸水跡がある場合、現品交換か軽傷なら乾燥させ、浸水原因を調べ、除去してください。	
取付ねじ、連結部ねじ等の緩み	増締めしてください。据付けボルトが緩んだ場合はより強固な回り止めを施してください。	
引込みケーブルの損傷	損傷がある場合は、再配線してください。	
絶縁抵抗	電源端子と非充電金属部500Vメガにて測定 外部電線路を外し10MΩ以下なら交換か結露の有無を点検してください。	外線を外し 対地間抵抗 100MΩ以上が初期値 です。
動作試験	試運転での動作確認をしてください。	

3. 点検の注意

本機器を直接点検する場合、機械が停止し電源が切れていることをご確認ください。

完了時、点検箇所を再確認しカバーを取付けてください。

付図 1 構造図

No.	品名	備考(手配コード)	No.	品名	備考(手配コード)
1	ボルト	M8×25	11	オイルシール	
2	端子カバー		12	ボルト	M12×25
3	アース	M6	13	カバー	
4	端子台		14	ウォームホイール	
5	ベアリング	6003ZZ	15	カム	
6	Bカバー		16	スイッチユニット	
7	ウォームシャフト				
8	エンドワッシャ				
9	ボルト	M6×12			
10	ベアリング	6203LLU			

